

# 侵入害虫クビアカツヤカミキリの発生にご注意ください！

令和3年3月23日  
京都府病害虫防除所  
京都府農林水産部農産課

生産園地において本種を見つけた場合には、直ちにお近くの農業改良普及センターまたは病害虫防除所までご連絡ください



クビアカツヤカミキリ成虫  
浦野忠久氏（森林総合研究所）提供



クビアカツヤカミキリ幼虫  
浦野忠久氏（森林総合研究所）提供

- ◆ 関東、中部、近畿、四国地方の11都府県のサクラ、モモ、ウメ等で侵入害虫クビアカツヤカミキリの被害が拡大しています。
- ◆ 京都府内での発生は確認していませんが、隣接する大阪府、奈良県では確認されており、今後、京都府内でも発生する可能性がありますので、発生に十分警戒してください。

## ■ 成虫

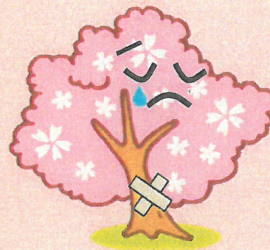
原産地は中国。体長は、約2.5～4センチ。  
全体的に光沢のある黒色で、胸部は赤色です。

## ■ 寄主作物

モモ、ウメ、カキ、サクラなど

## ■ 生態と被害状況

- (1) 幼虫がモモ、ウメ、サクラなどの生木の内部を食害し、樹勢を低下させます。その際、うどん状のフラス（木くず）を排出します（3～10月頃）。  
**被害が激しい場合は、枯死に至ることもあります。**
- (2) 幼虫は、幹の中で2～3年かけて成長し、蛹となります。
- (3) 6月中旬～8月上旬頃にかけて成虫となり幹の外へ脱出します。



幼虫が排出する  
うどん状のフラス



幼虫が食害した被害樹断面



成虫の脱出痕  
(羽化した跡)

〔果樹に使える薬剤記載版〕

■ 防除対策

(1) 5～6月頃、樹幹をよく観察し、フラスを確認した場合には、成虫の発生時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。

**成虫を見つけた場合は捕殺します。**

(2) **幼虫は登録薬剤（表1）を用いて防除**します。薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、**薬液が幼虫に十分かかるように**します。

(3) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、**成虫の発生時期前（9～5月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを2mの高さまで樹幹に巻き付け（密着させないように）、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺**します。



防虫ネットの設置

加賀谷悦子氏（森林総合研究所）提供

幼虫の食害が激しい樹では、伐倒により成虫の発生を防ぎ、周辺への被害拡大を抑えることができます。伐倒した樹はすぐに焼却もしくはチップ化し、地際部に幼虫が残っている可能性があるため、切り株は抜根などの処理を行います。

■ 登録薬剤 ※

表1 もも、うめ、かき、なしでクビアカツヤカミキリの防除に使用できる薬剤（令和3年2月26日現在）

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	農薬の総使用回数	
もも	3A	ベニカミキリシエアゾールロビンフット	かみキリシシ類	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 10回以内(噴射は5回以内、散布は5回以内)	
	-	バイオセーフ		木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	-	-	
	21A	ハチハチフロアブル		希釈倍率	成虫発生期但し、収穫前日まで	2回以内	トルフェンタトを含む農薬の総使用回数 2回以内	
	1A	オリオン水和剤40	1000倍	散布	成虫発生期但し、収穫14日前まで		アラニカルブを含む農薬の総使用回数 2回以内	
	1B	スプラサイト水和剤	1500倍	200倍	樹幹部及び主枝に散布	収穫21日前まで	2回以内	DMTPを含む農薬の総使用回数 4回以内(200倍希釈散布は2回以内、1500～2000倍希釈散布は2回以内)
		スプラサイトM	200倍			収穫60日前まで		シクラニフロールを含む農薬の総使用回数 2回以内
	28	テッパン液剤				収穫前日まで	3回以内	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数 3回以内
	4A	ダントツ水溶剤 ベニカ水溶剤	2000倍			収穫7日前まで		チアホキサムを含む農薬の総使用回数 3回以内
		アクトラ顆粒水溶剤				収穫前日まで		アセタフリトを含む農薬の総使用回数 3回以内
		モスピラン顆粒水溶剤				収穫前日まで		DMTPを含む農薬の総使用回数 2回以内
うめ	1B	スプラサイト水和剤		1500倍	散布	収穫14日前まで	チアホキサムを含む農薬の総使用回数 2回以内	
	4A	アクトラ顆粒水溶剤	2000倍			収穫7日前まで	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数 3回以内	
		ダントツ水溶剤 ベニカ水溶剤				収穫前日まで	アラニカルブを含む農薬の総使用回数 3回以内	
	1A	オリオン水和剤40		1000倍		成虫発生期但し、収穫7日前まで	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数 3回以内	
	22B	アケセルフロアブル				収穫前日まで	-	
	-	バイオセーフ			木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期	-	-
かき	3A	ベニカミキリシエアゾールロビンフット		樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	収穫前日まで	5回以内	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数 8回以内(噴射は5回以内、散布は3回以内)	
	なし	1B	かみキリシシ類	希釈倍率	樹幹部に十分散布	6～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)但し収穫21日前まで	7回以内(噴射は5回以内、散布は2回以内)	
使用量							1樹当たり1本	地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。
もも(伐倒木)、 うめ(伐倒木)	NCS	8F	クビアカツヤカミキリ幼虫	被覆内容積1㎡当り原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	1回	カーバムを含む農薬の総使用回数 1回	
							キルバー40	被覆内容積1㎡当り原液750～1500ml

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee(殺虫剤抵抗性対策委員会)がとりまとめた分類コード

※ 農薬の選択に当たっては普及センター、JA等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。

なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を確認してください。

〔サクラ等に使える薬剤記載版〕

■ 防除対策

- (1) 5～6月頃、樹幹をよく観察し、フラスを確認した場合は成虫の発生時期（6～8月）に、フラスを確認した樹木を中心に成虫の有無を確認します。**成虫を見つけた場合は捕殺**します。
- (2) **幼虫は登録薬剤（表1）を用いて防除**します。薬剤を噴射する前には、幼虫の食入孔内のフラスを針金や千枚通しなどでかき出し、**薬液が幼虫に十分かかるように**します。
- (3) 羽化した成虫の移動分散及び産卵を防止するため、**成虫の発生時期前（9～5月）に、4mm目合い以下の防虫ネットを2mの高さまで樹幹に巻き付け（密着させないように）、ネット内に成虫を見つけた時は捕殺**します。



防虫ネットの設置  
加賀谷悦子氏（森林総合研究所）提供

幼虫の食害が激しい樹では、伐倒により成虫の発生を防ぎ、周辺への被害拡大を抑えることができます。伐倒した樹はすぐに焼却もしくはチップ化し、地際部に幼虫が残っている可能性があるため、切り株は抜根などの処理を行います。

■ 登録薬剤 ※

表1 サクラでクビアカツヤカミキリの防除に使用できる薬剤(令和3年2月26日現在)

作物名	IRACコード	薬剤名	適用病害虫	使用方法	使用時期	本剤の使用回数	農薬の総使用回数			
さくら	6	リバイブ	クビアカツヤカミキリ	樹幹部に注入孔をあけ、注入器の先端を押し込み樹幹注入する	発生前～発生期	1回	エマクテン安息香酸塩を含む農薬の総使用回数 1回			
	3A	園芸用キンチョールE		【専用ノズルつけかえ方式】容器のボタンを引き抜き、専用ノズルにつけかえ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する	発生前～発生期	1回	フェンロバトリンを含む農薬の総使用回数			
				【2ウェイノズル方式】折り畳まれた専用ノズルを引き上げ、食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する						
	4A	ウッドスター		クビアカツヤカミキリ	樹幹注入	希釈倍率	発生初期	3回以内	ジノフランを含む農薬の総使用回数 5回以内	
		アトラック液剤							アトキサムを含む農薬の総使用回数 3回以内	
		モスピラン顆粒水溶剤							散布	アセタフリトを含む農薬の総使用回数 5回以内(樹幹注入は1回以内)
		マツグリーン液剤2							食入孔に注入	クロチアジンを含む農薬の総使用回数 6回以内
		ダントツ水溶剤 ベニカ水溶剤							散布	アラニカルブを含む農薬の総使用回数 5回以内
		1A							オリオン水和剤40	散布
	22A	トルネードE-SDF		1000倍	成虫発生初期	4回以内	メタルミンを含む農薬の総使用回数 6回以内			
	22B	アクセルフロアブル		200倍 100倍	主幹から株元に散布 木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	成虫発生直前～成虫発生期	6回以内	シクニリアロールを含む農薬の総使用回数 2回以内		
	28	ダブルリガー液剤		2000倍	散布	発生初期	2回以内			
さくら、食用さくら(葉)	-	ハイオリサ・カミキリ		使用量 1樹当たり1本	主幹又は主幹の分枝部分に巻き付ける。	成虫発生初期				
	-	ハイオセーフ			木屑排出孔を中心に薬液が滴るまで樹幹注入	幼虫発生期				
さくら(伐倒木)	8F	NCS	クビアカツヤカミキリ幼虫	使用量 被覆内容積1㎡当り原液1.0L	加害された伐倒木を配置し本剤を散布し、直ちにビニール等で密閉し、くん蒸する。	1回	カーバムを含む農薬の総使用回数 1回			
さくら(枯損木)		キルバー-40	クビアカツヤカミキリ	被覆内容積1㎡当り原液750～1500ml	加害された伐倒木を集積したものは枯損木に、所定量を散布し、直ちにビニール等で密閉し所定期間くん蒸する	1回	カーバムナトリウム塩を含む農薬の総使用回数 1回			
樹木類(伐倒木)	1B	バインサイドS油剤D ヤシマパークサイドF	カミキリムシ類	本剤をそのまま伐倒木樹皮の表面に表面積1㎡当り400～600mlの割合で散布する。	本剤の所定希釈液(灯油で希釈)を伐倒木樹皮の表面に表面積1㎡当り400～600mlの割合で散布する		MEPを含む農薬の総使用回数			
		バインサイドS油剤C ヤシマパークサイドオイル		希釈倍率 40倍～60倍(灯油で希釈)						
樹木類(倒木、伐倒木)		スミバイン乳剤	カミキリムシ類(スギカミキリを除く)	50倍～150倍	散布	伐倒・風倒直後樹皮下及び材内生息期	6回以内			
樹木類	3A	ベニカミキリムシエアゾール ロビンフッド	カミキリムシ類 成虫 クビアカツヤカミキリ(さくら)	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	噴射	成虫発生初期	フェンロバトリンを含む農薬の総使用回数 6回以内			

IRACコード：Insecticide Resistance Action Committee(殺虫剤抵抗性対策委員会) がとりまとめた分類コード

※ 農薬の選択に当たっては普及センター、JA等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用しましょう。なお、最新の農薬情報は、農林水産省ホームページの「農薬コーナー」の「農薬情報」を確認してください。